

一般社団法人経営情報学会 2019年秋季全国研究発表大会 大会テーマ：デジタルトランスフォーメーション（DX）が拓く新たな地平

遊橋裕泰 静岡大学大学院総合科学技術研究所

1. 開催概要

日程：2019年10月19日（土）・20日（日）
場所：静岡大学情報学部 浜松キャンパス
〒432-8011 静岡県浜松市中区城北3丁目5-1
共催：静岡大学情報学部，光産業創成大学院大学

2. ご挨拶

いま、様々な産業において、ICTを活用した新たなビジネスモデルが登場し、ゲームチェンジが起きつつあります。そして企業には、市場の破壊的変化に対応しつつ、第3のプラットフォーム（クラウド、モビリティ、ビッグデータ／アナリティクス、ソーシャル技術）を活用し、仮想空間と現実社会の両面でユーザエクスペリエンスを向上させることが求められています。

経営情報学は、このデジタルトランスフォーメーション（DX: Digital Transformation）を促進させる実学として、社会的な役割を果たすことができるのではないのでしょうか。ICTで収集されたデータがフルに活用され、新たなビジネスモデルが生み出され続けるようになることで国際的な競争力が強化されます。そしてその先には、課題解決型社会であるSociety5.0の実現が見えてくるはずです。

このような想いから、本大会のテーマは「デジタルトランスフォーメーション（DX）が拓く新たな地平」とさせていただきます。大会では、IoT導入によるビジネスプロセス変革や、データアナリティクスからの価値創造など、DX推進に資する議論が積極的に展開されることを期待します。デジタルイノベーションを加速させる斬新な研究発表と、皆様のご参加を心からお待ち申し上げております。

3. 講演情報

基調講演：10月19日（土）午後
経済産業省 商務情報政策局 情報産業課 企画官
和泉憲明氏。

特別講演：10月20日（日）午後
シーメンス株式会社 代表取締役社長兼 CEO
藤田研一氏

4. 発表申込・参加申込・予稿提出

発表・参加申込と予稿提出は下記の大会ホームページからお願いします。なお、発表者は参加申込が必須です。

http://www.jasmin.jp/activity/zenkoku_taikai/2019_fall/

5. 大会参加費・懇親会費

一度納入された参加費は、いかなる理由があっても返金いたしかねます。ご了承ください。

[大会参加費]

	事前決済	当日決済
正会員	¥8,000	¥9,000
学生会員	¥3,500	¥4,000
学生非会員	¥7,000	¥8,000
非会員	¥10,000	¥11,000

※学生非会員も事前決済が可能です。

※学生会員の入会申込（年額3,000円）をされた方が、学生非会員で参加登録するよりお安くなります。詳しくは指導教員にお問い合わせください。

※「名誉会員」・「S会員」の方は、今回大会では「正会員」と同額の大会参加費となります。

※会期期間中に、会場が当日参加を受け付けます。

※事前参加申し込み完了の方は、当日受付にて「参加証兼領収証」をお渡しいたします。

[懇親会費]

事前決済	当日決済
¥6,000	¥6,500

※懇親会費は会員区分の違いなく一律この価格となります。

※懇親会会場：ヴィラくれたけ（〒432-8036 静岡県浜松市中区東伊場 1-1-26）

6. 交通案内



会場：静岡大学浜松キャンパス（浜松市中区城北 3-5-1）

JR浜松駅まで：新幹線「ひかり」をご利用ください。

「企業事例セッション」開催予告（2019年秋季全国研究発表大会）

大会担当理事：後藤裕介 岩手県立大学

2019年10月19日・20日に開催される2019年秋季全国研究発表大会では、大会企画として会期1日目に「企業事例セッション」を開催いたします。本会会員・経営情報フォーラム読者の皆様に本セッションへの参加をご検討いただくために、セッションの趣旨、これまでのご発表を紹介させていただき、その魅力の一端をお感じいただければと思います。

「のぞみ」は浜松駅に停車しません

JR東京駅より約1時間30分

JR新大阪駅より約1時間20分

JR浜松駅より：遠鉄バスのりば等 JR東海浜松駅前北口バスターミナル15,16番のりばから 全路線「静岡大学」下車（所要時間約20分、1時間に10本程度運行）

7. 宿泊案内

大変恐れ入りますが宿泊施設の手配は、各自でお願いいたします。

8. 昼食案内

土曜日は食堂の利用が可能ですが、日曜日には利用ができません。周辺にはあまり食事ができる場所がございませんのでご注意ください。日曜日は事前注文による弁当の準備、無料のランチオンセミナーの開催を予定しております。

9. お問い合わせ先

jasmin19fall@googlegroups.com

1. 企業事例セッションとは？

企業事例セッションは、産業界の方に経営情報学に関わる企業での実践例（苦労話、未解決問題を含む）や経営情報学に関わる技術・サービス（製品）をご紹介いただくことで他企業や学識者との情報交換・交流の促進を目指すものです。

大会では他にも一般セッション、研究部会セッションなどが設けられておりますが、このセッションは他のセッションとは異なり、「研究成果」の報告が目的では無い点が特徴です。経営情報学のような

な実学においては、実践例の共有には大きな価値があると考えられます。大会を交流の場として捉え、議論やその後の発展を主にねらったセッションです。

2. 発表例

企業事例セッションでは優れた報告を「優秀報告賞」として表彰しております。過去の受賞者による発表タイトルは以下の通りです。

- ・「福祉分野における潜在ニーズをとらえた業務支援システムの開発」
- ・「人工知能技術を応用した特許文書分析が生み出す新たな技術戦略の検討」
- ・「データサイエンスによる鉄鋼製品の品質管理の革新」
- ・「アパレル EC サイトにおける説明文自動生成」
- ・「発生/収集における時間概念が相違するデータの直接比較：購買ログとアクセスログの関係性

について」

3. 参加とご発表のお誘い

発表例からも、非常に具体的・実践的な内容であり、実務において参考になりうることがご理解いただけると思います。

企業事例セッションは次回大会以降も継続して開催する予定です。受賞の実績は企業の技術・サービス・製品のアピールにもつながる可能性があると思いますので、ぜひ発表をご検討ください。学会での発表は慣れておらず不安であるという方は、丁寧にサポートをいたしますので、下記連絡先まで遠慮なくご相談ください。

お問合せ先：大会担当理事
後藤裕介（岩手県立大学）
y-goto@iwate-pu.ac.jp

LEGO® SERIOUS PLAY® ワークショップを秋季大会で開催します

飯島淳一 東京工業大学
森本千佳子 東京工科大学

皆さん、LEGO® SERIOUS PLAY®をご存知だろうか？ LEGO®については、おそらくほとんどの皆さんは名前を聞いたことがあり、また、子供のころ遊んだ経験をお持ちではないかと思う。LEGO®というのは実は社名で、デンマーク語で「よく遊べ」を意味する「leg godt」から命名されたと言われている。日本語でいわゆるレゴと言われているのは、LEGO®社が販売している、様々な形や色のブロック（レゴブロック）を組み合わせて、いろいろな造形物を作る遊びのことである。

ところで、このLEGO®ブロックを使って、会議や重要な意思決定の場面で、コミュニケーションを行うことの有効性が2000年に入ってからクローズアップされ始めた。

それを体系化したものが、LEGO® SERIOUS PLAY®（以降LSPと略す）である。LSPについては、4日間の認定ファシリテータ育成コースが年に何回

か用意されている。このたびのワークショップを企画・実施する私たち2名もRasmussen Consultingから認定されたLSPファシリテータの一員である。

今年10月に静岡大学で開催される秋季大会では、会員諸兄に、LSPの有効性を体験していただくという主旨で、LSPのワークショップを開催することになった。

LSPは次のような特徴を持っていると言われている：

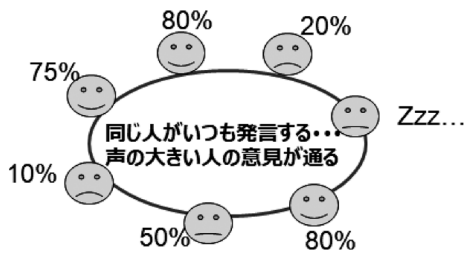
- ・各自がレゴブロックを使ってモデル（造形物）を作り、それについて語ることで、「もの」を媒介にしたニュートラルなコミュニケーションが可能となる。
- ・作ったモデルの本質を抜き出して、統合することにより、全員の考え方を反映する全体像を作り上げることができる。
- ・さらに、その周りに各自が作る別のモデルを配

置することにより、鳥瞰図ができる。

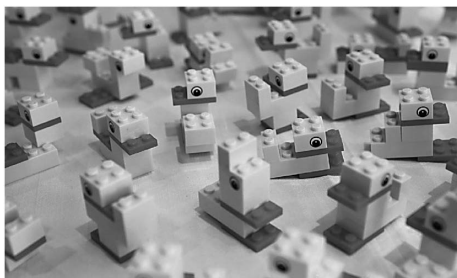
- コネクティングパーツと呼ばれる、モデルを連結するパーツを使って、関連するモデル同士をつなげることにより、相互関係を可視化することができ、システムとしての全体像の把握が可能となる。

また、LSPを実施することで次のような効果が期待されるとされている：

- 参加者全員のアイデアをすべて生かしたものが生まれる（20-80ではなく、100-100）。



- アイデアが相乗的にどんどん生まれる。
- 手を動かすことによる脳への刺激が、新たなアイデアの源泉になる。
- 参加者のアイデアの関係を可視化することができる。
- 参加者のアイデアを共有することができる。



このたびのワークショップは下記の要領で開催するので、ご関心のある方は、大会事務局までお申し込みいただきたい。なお、4名1チーム、4チームで実施する予定なので、先着16名までとさせていただきます。

日時：令和元年10月20日（日）9:30～12:00

場所：静岡大学浜松キャンパス

当日のスケジュール：

9:30～10:00 ウォーミングアップとLSPについてのミニ講義

10:00～11:45 テーマにしたがったモデルづくりと共有化

11:45～12:00 意見交換

今回は、時間の関係で、LSPのすべてを体験していただくことはできないが、LSPのおもしろさと有効性の一端を垣間見ることができるものとする。

なお、お問い合わせは、下記まで：

iijima.j.aa@m.titech.ac.jp

ファシリテータ略歴

飯島淳一（いいじま じゅんいち）

東京工業大学大学院総合理工学研究科博士課程修了、同大学助手、助教授を経て、現在、同大学工学院教授。

専門は、企業工学、特にエンタープライズオントロジー、ITによるエンタープライズガバナンス。

DEMO Expert, IT-CMF Professional,

LEGO® SERIOUS PLAY® Facilitator

森本千佳子（もりもと ちかこ）

筑波大学ビジネス科学研究科博士課程修了。

（株）東洋情報システム（現TIS株式会社）、東京工業大学特任講師、同特任准教授を経て、現在東京工科大学コンピュータサイエンス学部准教授。

専門はソフトウェアエンジニアリング、プロジェクトマネジメント、グループダイナミクス。

情報処理技術者試験プロジェクトマネージャ、Project Management Profession (PMP), LEGO® SERIOUS PLAY® Facilitator.



Lonely Guy：自分の中の言葉にならない想い。組織の中で自分の言葉を他者にうまく伝えられない人

LSPについては、<http://www.seriousplay.jp/>をご参照下さい。

2019年秋季全国研究発表大会特別セミナーのご案内 「実現場への導入を加速する新たなAI」

大堀耕太郎 (株)富士通研究所 人工知能研究所

1. 本セミナーの趣旨

本会のテーマである「デジタルトランスフォーメーション (DX)」を実現するための一つのキーテクノロジーは人工知能 (AI) である。社会システムにおける人間活動の情報がデータ化されるなかで、そのデータをAIに通すことで、新たなサービス価値の形成が期待される。しかし、実際には、AI技術を効果的に使用するためのデータが十分ではないケースや、説明責任や公平性を担保できないといったAIのブラックボックス問題 (FUJITSU JOURNAL, 2019) により、実現場へのAI導入が進まない状況が多々発生している。本セミナーでは、はじめに、世の中のAIの動向と、我々が考える今後のAIへの期待について述べる。その上で、富士通研究所が開発した実現場への導入を加速する新たなAI「Wide Learning (富士通研究所, 2018)」について解説する。さらに、Wide Learningの活用事例をデモの実演と共に紹介し、AIの新たな展開について議論する。

2. Wide Learningの概要

Wide Learningは、学習データの中から、データ項目の組み合わせで記述された人間が理解可能な重要な仮説 (ナレッジチャンク) を高速に「列挙」し、その知識を用いて予測・分類を行う技術である (図1)。

Wide Learningの特長は、人間が理解可能な仮説を用いているため「透明性」が高く、また、データの多寡にかかわらず「手持ちのデータ」から始められる点にある。さらに、従来の機械学習技術がターゲットとしてきた予測・分類を超えて、Wide Learningは網羅的な仮説列挙により、人間の「知識発見」を助けることができる。実際に、マーケティング分野での実験では、Wide Learningによって得

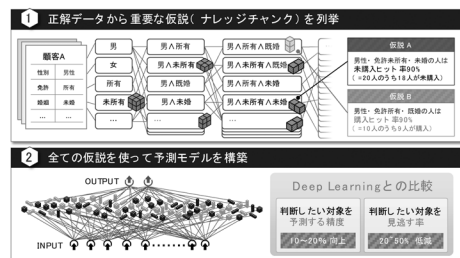


図1 Wide Learningの概要

られた仮説について、現場の専門家から「経験的にも正しい」といった納得性に加え、「今まで気づけなかったが、あり得る特徴だ」といったコメントが得られている。

現在、マーケティング、金融、ものづくりなど多様な業種の現場でWide Learningの実証を進めており、既に一定の効果をあげている。多くのケースで、「分かりやすい」「簡単に使える」といった声が上がっており、人にとって身近で親しみやすいAIである。今後、Wide Learningにより、様々な人間活動を支援していき、社会システムを支えるAIとして確立していく。

3. セミナープログラム

座長



大堀耕太郎 (おおほり こうたろう)
(株)富士通研究所
人工知能研究所
主任研究員

(1) AIの動向と今後の期待



穴井宏和（あない ひろかず）
（株）富士通研究所
人工知能研究所
シニアディレクター

(2) Wide Learning 技術解説



後藤啓介（ごとう けいすけ）
（株）富士通研究所
人工知能研究所

(3) Wide Learning 活用事例の紹介



浅井達哉（あさい たつや）
（株）富士通研究所
人工知能研究所
シニアリサーチャー

参考文献

FUJITSU JOURNAL, インフォグラフィクスでみる
説明可能なAI, 2019. <https://blog.global.fujitsu.com/jp/2019-01-17/02/>
富士通研究所, 正解が少ないデータでも高精度に学習するAIの新技术「Wide Learning」を開発, 2018.
<http://pr.fujitsu.com/jp/news/2018/09/19-2.html>